

日本青少年訪韓団第1・2団 派遣プログラム (対象国：韓国，テーマ：学校訪問先での日本の魅力発信，韓国文化体験) の記録

1. プログラム概要

日本の高校生等 99 名が韓国を訪問し，学校訪問，韓国文化体験，歴史的建造物視察などを通して韓国への理解を深めるとともに，日本の魅力の発信等，日韓の相互理解と信頼関係の増進に寄与することを目的として活動しました。また，帰国前の報告会では，この経験を活かした帰国後のアクション・プランについて発表しました。

【訪問地】

ソウル特別市，京畿道城南市・華城市・龍仁市・水原市，忠清南道公州市

2. 日程

10月22日（日）

- (1 団／京都府) 入国（仁川空港），【市内視察】明洞
- (2 団／岐阜県) 入国（仁川空港），オリエンテーション・講義（漢城大学）

10月23日（月）

- (1 団) 【表敬】国立国際教育院訪問，在大韓民国日本大使館公報文化院，
【文化体験】金箔工芸，【ソウル市内視察】北村韓屋村
- (2 団) 【表敬】国立国際教育院訪問，【文化体験】伝統衣装
【ソウル市内視察】北村韓屋村

10月24日（火）

- (1 団) 【学校訪問】（授業体験，地元の魅力紹介，ホームステイ）
- (2 団) 【学校訪問】（授業体験，日本文化・地元の魅力紹介）

10月25日（水）

- (1 団) 【ソウル市内視察】エンターシックス，上岩MBC放送局
- (2 団) 【地方視察】韓国民俗村，【ソウル市内視察】Nソウルタワー

10月26日（木）

- (1 団) 【交流】公州大学校訪問，【文化体験】パンソリ
- (2 団) 【表敬】在大韓民国日本国大使館公報文化院，【ソウル市内視察】ソウル城郭跡

10月27日（金）

(1 団) 【地方視察】公山城，公州博物館，水原華城行宮，成果報告会

(2 団) 【ソウル市内視察】ソウル駅，明洞，成果報告会

10月28日（土）

(1 団) 【ソウル市内視察】サムソンディライト，出国（金浦空港）

(2 団) 【ソウル市内視察】国立中央博物館，出国（仁川国際空港）

3. プログラム記録写真

	
<p>10月22日【講義】日本人が経験した韓国・韓国文化（ソウル特別市）</p>	<p>10月23日【表敬】韓国国立国際教育院（京畿道城南市）</p>
	
<p>10月23日【視察】景福宮（ソウル特別市）</p>	<p>10月24日【学校訪問】授業体験（京畿道城南市）</p>



10月24日【学校訪問】地元の魅力紹介
(京畿道城南市)



10月24日【学校訪問】テコンドー体験
(京畿道華城市)



10月24日【交流】ホームステイ対面式
(京畿道城南市)



10月25日【視察】上岩MBC放送局
(ソウル特別市)



10月25日【文化体験】韓紙工芸
(京畿道龍仁市)



10月26日【交流】公州大学校
(忠清南道公州市)

	
<p>10月26日【文化体験】パンソリ (忠清南道公州市)</p>	<p>10月26日【表敬】在大韓民国日本国大使館 公報文化院 (ソウル特別市)</p>
	
<p>10月27日【視察】水原華城行宮 (京畿道水原市)</p>	<p>10月28日【視察】サムソンディライト (ソウル特別市)</p>

4. 参加者の感想 (抜粋)

◆ 日本 高校生等

1 団

・韓国に来る前は、生活様式や言語が違うので、本当に自分が1週間も過ごせるのかとも不安だった。しかし実際に来てみて韓国の印象がガラッと変わった。韓国の人は気が強くてあまり表情が豊かでないイメージがあったが、とてもフレンドリーで優しく接してくれた。やはり、実際に訪れて自分の肌で感じる事が大切だと感じた。

・公州大学で日韓の男女が互いの国でフリーハグをしている映像を見て、1人が勇気を出して「日韓で仲良くしよう！」と活動するだけで、何人もの人が賛同してくれる、関心を持ってくれることを知った。これまで1人では何も変えることができないと思っていたが、自分が行動を起こせば何か大きな変化をもたらすことができるのではないかと思えるようになった。

・ホームステイを通して、韓国の人の温かさを感じた。韓国の人はサバサバしていてどこか冷たいというイメージを勝手に持っていたが、それはただの先入観で、日本に劣ら

ないくらい、あるいは日本以上におもてなしの心を持っていることが分かった。特にお世話になったホストファミリーには、感謝の気持ちと親しみを強く感じた。

・どこか遠い存在で、韓国人は日本に興味を持っていないと思っていたが、実際は親日の人や興味を持ってきている人も多く、想像以上に近い存在だった。

・日本の事は韓国ではあまり知られていないと思っていたが、たくさん知っていたので驚いた。自分もまた韓国に行く機会があったら、韓国についてもっと勉強していきたいと思った。また、日本語を話せる韓国人が多かったので、自分も韓国語を勉強したいと思うようになった。

2 団

・私は訪韓前には友人から韓国に行くなんて危なくないのかと聞かれ、正直、何と答えていいのかわからなかった。だが、今回の研修中の学校訪問や韓国の方々との交流を通して、今ははっきりと韓国人はとても親切で、韓国はとても良い国だと言うことができる。また、5日目に訪れた在大韓民国日本国大使館公報文化院で、日本を訪れる韓国人と韓国を訪れる日本人の数に大きな差が有ることを知った。最近、日本では一部の報道などの影響を受けて韓国に偏見や抵抗感を持っている人が多いように思う。全ての日本人と韓国人が実際に互いの国を訪問すればこのような偏見などはなくなると思う。しかし、それは不可能なことだ。だからこそ、私たちのように韓国を実際に訪れた者が韓国で日本の魅力を発信し、また日本でその体験を皆に発信していくことが重要だと思っている。

・韓国についてニュースではあまりよくない取り上げ方をされていたので、訪韓前はあまりよくない国だと思い込んでいたけれど、韓国人はとても思いやりがあり、いい国だと知った。まだ日本では、韓国について変な風に考えている人もいるので、韓国の良さをもっと知ってほしいと思う。また、帰国後は日本について知ってもらうために、インターネットを使って、日本の文化を日本中、世界中に発信していきたいと思う。

5. 受入れ側の感想

◆ 訪問校（生徒）

・短い時間だったが楽しい思い出がたくさんでき、とてもうれしかった。言葉は通じなくても心は通じ合うことができることを知った。とても有意義な時間だったと思う。心が通じ合うことで、お互いを理解し尊重することを学ぶ良い機会となった。別れがとても名残惜しい。

◆ 受入大学（外国人支援センター長）

・まず日本側引率陣、韓国側スタッフ、そして団員の皆さんの協力により、研修を無事に終えることができたことに感謝したい。7日間と短い時間であったが、団員の皆さんは多くのことを見て、新しい体験をして、かけがえのない思い出を作ることができた

思う。その思い出が当校との絆，また日本と韓国への絆とつながっていくことに期待したい。

◆ 訪問校（校長）

・本校での交流とホームステイを通じて，互いに悩みや学校のことを話す良い機会になったのではないかと思う。表面的なことだけでなく，良いことも悪いことも話すことで互いの理解につながる。韓国と日本は似た文化を持つてはいるが，やはり違いも沢山ある。ホームステイでは，日本との違いに驚くことも多かったと思うが，そういった文化の違いに触れることで，韓国を理解してもらおうと共に，それが彼らの成長につながることを願っている。ぜひまた韓国を訪問してもらいたい。

◆ ホームステイ（生徒）

・日本に興味があったので，日本人の友達ができ嬉しかった。言葉の問題があるので心配だったが，英語やジェスチャーでコミュニケーションをとることができた。別れるときはとても悲しかったが，連絡先を交換したので，これからも連絡を取り合っていきたい。

6. 参加者の対外発信

 <p>2日目 韓国大使館に行きました。そこでみた日韓の交流の姿にはなにか惹かれる魅力がありました。またそこで話していただいた訪韓する日本人の減少については私の周りには韓国を訪れる人が多いので意外でした。</p> <p>また北村では日本とは違う家の作りの街並みがとても魅力的でした。</p>	<p>子どもたち一人一人に、漢白中学校の生徒が一人ずつパートナーとなり、一緒に活動しました。</p>  <p>子どもたちが準備してきた発表では、練習の成果を発揮し堂々と日本のよさを伝えることができました。</p> <p>また子どもたちは、自分のパートナーの生徒と、簡単な英語や日本語で会話して仲よくなりました。</p> <p>別れる際には、互いに別れを惜しむほど絆を深めることができました。</p> <p>子どもたちは、昨日までに大学の先生方に教えていただいた、「韓国と日本が互いに理解、尊重し合うことで、共に発展していくことが大切であること」を実践することができました。</p> 
<p>2日目 韓国にある日本の大使館に行きました。そこでみた日韓の交流の姿には何か惹かれる魅力がありました。</p>	<p>子どもたちが準備してきた発表では、練習の成果を発揮し堂々と日本のよさを伝えることができました。</p>
 <p>2 みどころ 着物 kimono 洋服 > 着物 Clothes kimono 現代の洋服らしく変化 Kimono is changing as modern clothes.</p>	
<p>訪問学校で、地元の見どころと日本の伝統文化、学校生活などについてパワーポイントを使って説明しました。</p>	<p>訪問学校では、日本の四季、学校行事などについて英語で発表を行いました。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>学校で訪韓団での活動報告会を行う。交流した方々と SNS で連絡を取り合い、日本や京都について知ってもらう活動をしていきたい。</p>	<p>成果報告会では、学校訪問で親しくなった韓国の友達に日本の魅力を紹介していきたいというアクション・プランを発表した。</p>
	
<p>今回の経験を、学校内の新聞、放送、掲示板を通して生徒自身の言葉で伝え、日韓関係の未来とそれに対する意識を周囲の人たちと共有したい。</p>	<p>帰国した生徒たちが、それぞれのクラスで交流内容や体験したこと、印象に残ったことなどについて報告を行った。</p>